



働き方改革が議論され、法律の改正が行われましたが、労働時間の制限をなくした「高度プロフェッショナル制度」の導入など、過労死が却って蔓延するのではないか、という懸念が拭えません。働き盛りの青壮年を襲う突然死の原因として心室細動が突発する**ブルガダ症候群**が注目されています。

世界で初めてこの症候群を発見した、宮城県民主医療機関連合会会長の**宮沼弘明氏**に本症候群の、とくに働く現場における意味を報告していただき、現場から過労死を予防する取り組みについて考えます。



虐待で子どもの命が奪われるたびに、国は虐待対策の強化を全国の自治体、関係機関に呼びかけますが、悲惨な事件は後を絶ちません。

核家族化の進行や地域のつながりが薄れる中、妊娠、出産、子育てに係わる様々な不安や負担が大きくなっています。さらに経済格差の広がりや社会全体に蔓延している「自己責任」が孤立感を高めています。「子どもを守り孤立した親を救うにはどうしたらよいのか」。

旧沢内村で生命尊重の活動を実践してきた保健師の高橋和子さんと、児童養護施設で子どものケアを行っている赤坂美代子さんと一緒に考えたいと思います。

2019 10/19

土

時間 13:00 ~ 16:00

会場

プラザおでってホール

盛岡市中ノ橋通一丁目1-10 / ☎ 019-604-3300

会費

一般 1,500 円 / 新医協 会員 500 円 (当日払い)



1 「ブルガダ症候群」：過労死を防ぐ

宮沼 弘明 氏 (医師 / 宮城厚生協会坂総合病院附属北部診療所 所長
/ 宮城民医連会長)

2 「子どもこそ原点」～旧沢内村の母子保健活動から～

高橋 和子 氏 (旧沢内村保健師 西和賀町 町議会議員)

3 「虐待を受けた子どもの現状と課題」～みちのく・みどり学園の取組みから～

赤坂 美代子 氏 (児童養護施設みちのく・みどり学園副園長)